

アジア、太平洋地域で発生する災害に対応するための拠点である、国際赤十字赤新月社連盟アジア大洋州オフィス（マレーシア、クアラルンプール）のロジスティクス部門に派遣されて、8ヶ月が経ちました。災害対応や各国赤十字赤新月社の開発支援など多岐にわたる業務を通じて、ロジスティクス分野だけに限らず、世界における赤十字の使命・立場・存在意義についても理解を深めることが出来ています。またマレーシアをはじめ東南アジア、南アジア、パシフィックエリアにおいて、様々な文化・習慣・宗教・考え方の中で仕事をするものの難しさや醍醐味を肌で感じています。

7月からの災害シーズンに備えて

自然災害が多発するアジア太平洋地域において、7月からの数ヶ月は特に緊張が高まるシーズンです。毎年30個近い台風が東南アジアから東アジアを通過し、南アジアではサイクロンが、中央アジアでは洪水や地すべりが発生します。そして、どの自然災害も各地に深刻な被害をもたらします。救援物資を取り扱うロジスティクス部門では、各地域の連盟オフィス、ジュネーブ本社、ならびに各国赤十字赤新月社と連携し、この災害シーズンに対応するための事前準備を整えています。現在、私はクアラルンプールのオフィスからバングラデシュに派遣されています。以下、報告です。

バングラデシュ赤新月社の倉庫部門の開発プロジェクト

ベンガル湾に流れる込む広大なガンジス川の河口、平坦で肥沃なデルタ地帯が広がる自然豊かな地域が、バングラデシュの国土です。一方で、この地域は洪水やサイクロン、地震など毎年大きな災害が発生しています。バングラデシュ赤新月社は、国内で発生する災害に対してこ



これまで様々なオペレーションを展開してきました。そしてさらに柔軟かつ効率よく対応するために、2014年に物資調達・倉庫・車両を一括管理するロジスティクス部署が設立されました。このたび、連盟支援のもとで倉庫部門の開発プロジェクトが立ち上がり、私はコーディネーターとして携わっています。

このプロジェクトの目標は、バングラデシュ赤新月社が保有する5つの倉庫の整備および適切な運営、倉庫担当者の教育、効果的な救援物資の配備です。大阪赤十字病院にもロジスティクスセンターがありますが、倉庫は緊急救援ならびに復興支援オペレーションをタイムリーにサポートするために、欠かすことができないツールです。現在5つの倉庫のうち、首都ダッカの本社に併設されている倉庫のみが使用されています。しかし、サポートツールとして機能しているとはいえず、プロジェクトではこのダッカ倉庫の整備から始めることになっています。



バングラデシュ赤新月社の災害用倉庫

コーディネーターとしてこれまでプロジェクトの立ち上げ、第一段階の計画立案・策定に取り組み、現在はダッカにてプロジェクトの運営サポートを行っています。長期間のプロジェクトになりますが、現場関係者のモチベーション維持のために、毎日、目に見える変化を起こすことを一つの課題にして、日々の業務に励んでいます。



現地職員と相談する河合主事